

発行日：2014年9月25日

発行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

患者支援センター長のご挨拶

日頃は大阪府立母子保健総合医療センター（以下、母子医療センター）との医療連携にご指導、ご協力をいただき、ありがとうございます。2014年8月4日にこれまでの地域医療連携室、医療相談室と在宅医療支援室を統合した患者支援センターをオープンし、初代センター長に就任いたしました。

これまで、上記の3室は独立して活動をおこなっていましたが、同一エリア内に執務室をまとめ、看護師、保健師、ソーシャルワーカー、心理士が机を並べて仕事ができるようにいたしました。これにより職種間の連携が深まり、より総合的な医療サービスが提供できると考えています。

母子医療センターは診療科が細分化されているため、患者さんをご紹介いただく際にどの診療科に紹介すればよいのか、迷われる場合もあると思います。FAX予約等の初診受付業務は事務職員がおこなっておりますが、看護師も同じ部屋で執務しておりますので、電話等で症状を伝えていただければ、適切な診療科をご紹介いたします。

初診予約のような前方支援だけではなく、地域で診てくださる医療機関を患者さんに紹介させていただくなど後方支援も、地域医療連携室の重要な業務と考えています。赤ちゃんの時から母子医療センターに通っているため、地域のかかりつけ医を持っていない患者さんもおられます。また、周産期部門が設立されてから30年以上が経過しているため、成人となってからも母子医療センターに通院されている患者さんも多数おられます。これらの患者さんを地域の先生方と共に診ていくことが、患者さんが安心して地域で生活していくうえで、そして、母子医療センターの高度な医療を必要とする患者さんに、迅速に対応するために非常に重要と考えています。

母子医療センターにとって、地域の医療機関との連携は非常に重要であるにも関わらず、その取り組みはまだまだ十分ではなく、ご迷惑をおかけしていることも多々あると存じます。これからは、地域医療連携室だけではなく患者支援センターとして、地域医療機関の先生方と連携を密にして、患者さんやご家族により良い医療を提供していく所存です。これからもよろしくお願ひいたします。

（患者支援センター長 里村 憲一）



患者支援センター長
里村 憲一

基本理念

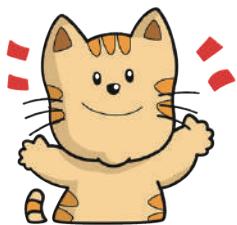
母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。



患者支援センターの業務紹介



総合相談室

これまでの医療相談室は、総合相談室内に集約されました。ケースワーカー、看護師、心理士、保健師を配置し、患者さんやご家族からのご相談を一元的にお受けします。直接、患者支援センターに来ていただければ、ご相談内容に応じて適切な専門の職員が対応いたしますので、お気軽にお立ち寄りください。専門職員が不在の場合は、後日に日時を決めて対応させていただく場合もあります。小児がんに関する相談も総合相談室でお受けいたします。小児がんに関する相談については、母子センターに通院されていない患者さんやご家族の方もご相談可能です。小児がん相談の場合は電話による相談も可能ですので、どうぞご利用ください。【室長 里村 憲一】

地域医療連携室

地域医療連携室では当センターの窓口として患者さんの初診予約、セカンドオピニオンの受け付け業務を担っています。また、逆に当センターから他の医療機関へ紹介する場合には、医療機関との予約調整も行っています。患者さんに対しては、ご家族の病気への理解をさらに深めるために疾患別のリーフレットの作成も進めています。連携医療機関登録施設や産科セミオーブン登録施設の管理以外に、診療のご案内・医療連携ニュースの発行、各種セミナー（イブニングセミナー、医療連携懇話会、地域医療連携研修会）の開催などの広報活動を通して、地域の医療機関の皆様との連携を強化したいと考えています。【室長 鈴木 保宏】

在宅医療支援室

在宅医療支援室は、医療的ケアを行いながら在宅で過ごしている患者さんの安全を守り、ご家族とともに充実した在宅生活を支えるために活動しています。在宅医療には、医師、看護師、ケースワーカー、心理士、保健師など院内院外の多くの部署・職種の関わりが必要で、コーディネーターの役割も担っています。具体的な活動は、1) 看護師による在宅療養での相談や医療的ケアの手技の確認、在宅で使用する必要物品の相談、2) 医療的ケアのある患者さんの在宅のかかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携、3) 医療的ケアを引き受ける家族の心理的ケア、4) 在宅医療研修会の開催や保健機関の連携会議や検討会に出席しています。医療的ケアの必要な患者さんとそのご家族の困っていることへの相談に乗って解決策を一緒に考えています。お気軽にご利用ください。【室長 位田 忍】

眼 科

眼科は視機能の発達にとって最も大切な時期である新生児から学齢期までの乳幼児を対象として、小児の眼疾患に対する総合的な医療を提供しています。患者さんやご家族の方とは十分な信頼関係を築きながら、長いお付き合いをさせて頂いております。

小児眼科特有の疾患である斜視、眼瞼疾患、先天白内障、先天緑内障などでは早期治療による弱視の予防と治療に努めています。網膜芽細胞腫などの重篤な疾患では、血液・腫瘍科などと共にご家族を含めたチーム医療で最善の治療を行う態勢をとっています。当院の大規模 NICU(新生児集中治療室) からは重症の未熟児網膜症も発生しますが、新生血管に対する新しい薬剤の登場により治療成績が大きく改善され、今後の一層の発展を期待しています。また、内科系の全身疾患には重症筋無力症やネフローゼをはじめとして眼症状を伴うものが多くあり、小児病院には欠かすことのできない診療科と自負しています。



当科には多くの症例をご紹介いただき感謝しております。ただ、昨今の勤務医不足を背景としまして、小児眼科の運営が慢性的に大変厳しくなっております。急を要する場合を除いて、初診までの待ち時間が長いことを心苦しく思いますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

(眼科主任部長 初川 嘉一)

地域医療連携研修会のご報告

2014年6月14日（土）ホテル日航大阪にて『第1回地域医療連携研修会』を開催（大塚製薬共催・和泉市医師会後援）いたしました。重篤小児患者の受け入れ体制を強化するため進められてきた新手術棟完成を記念するとともに、これを機に地域の医療連携をより一層深めることを目的としたものです。

当センター小児神経科主任部長による教育講演「てんかん診療のABC」では、地域の先生方にてんかんを知りたい良い機会になったと思います。また、特別講演は岐阜大学大学院医学系研究科 救急・災害医学 教授、高次救命治療センター長の小倉真治先生をお招きし、「救急医療の全体最適化」と題して、岐阜県の救急医療の仕組みを構築された実績についてお話を伺うことができました。「病院で待つから患者を迎えに行くシステム」の構築や患者の症状に合わせて専門医のいる医療機関を探すシステムなど、当センターの新手術棟の記念に相応しい貴重なお話でした。意見交換会では、顔の見える連携の一助となるよう当センター診療科部長の紹介をさせていただきました。また、当センターの初診予約方法へのご意見等を直接お聞きすることができ、今後の改善につなげる努力をしてまいります。

当日は135名の皆さんにご参加いただき、盛況のうちに終わりましたこと改めてお礼申し上げます。



連携登録医療機関へのアンケートのご報告

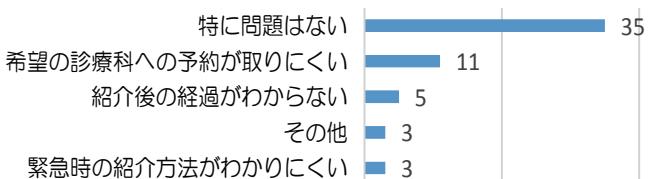
2014年4月に当センター連携医療機関を対象にアンケートを行った結果をご報告いたします（回答率21%、74件/352件）。多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

登録医の先生方からのご意見としまして、

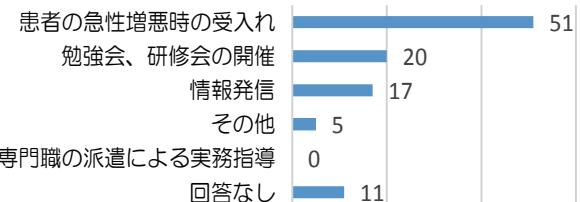
- ①土曜日の初診受付の希望、②予約がとりにくい、
③病状が急変した時の受け入れ強化の希望が多く寄せられました。

それぞれのご意見に対して対応を検討してまいりますとともに、特に③につきましては、5月に手術室とICUの増床を行い、重篤小児患者の受け入れ体制を強化しているところです。今後とも地域の周産期・小児医療を担う基幹病院としての役割を担っていく所存です。なお、すべての結果につきましては、ホームページでも公開いたします。

Q. 当センターへの紹介に際して、不満をお待ちでしょうか。



Q. 連携を行う上で当センターの役割として求められるものは何ですか。



イブニングセミナーのお知らせ

2014年度も引き続きイブニングセミナーを開催いたしております。今年度はチーム医療として取り組んでいることをテーマにおこないます。事前申し込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

時間：午後5時30分～6時30分 場所：大阪府立母子保健総合医療センター内（下記参照）

日程	場所	テーマ（仮題）	担当部署	講演者
2014年10月9日	中央 会議室	病院と地域をつなぐ、 子どもと家族への心理的支援	子どものこころの 診療科	山本 悅代
2014年11月6日	研究所 大会議室	小児の在宅医療	在宅医療支援室	峯 一二三
2014年12月4日	研究所 大会議室	小児のリハビリ	リハビリテーション科	田村/瓦井/稻垣
2015年1月8日	研究所 大会議室	子どもと妊婦へのお薬アコレ	薬局	石川 照久
2015年2月5日	研究所 大会議室	小児の緩和ケア	緩和ケアチーム	澤田 明久

※テーマ、講演者につきましては各セミナー開催の1か月前に確定し、ホームページにてお知らせいたします。

交通のご案内



診察時間：平日 午前9時～午後5時

予約受付時間：平日 午前9時～午後7時

初診予約FAX：0725-56-5605 (24時間受付)

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

患者支援センター 地域医療連携室

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

TEL: 0725-56-9890 (直通)・0725-56-1220 (代表)

FAX: 0725-56-7785・0725-56-5605 (初診受付専用)

<http://www.mch.pref.osaka.jp>

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。